

BANDAI SPIRITS

BANDAI SPIRITS ホビー事業部

加速的進化がとまらない BANDAI SPIRITS 2018年プラモデル

2018年4月より社名を改め、新たな理念のもとにスタートした株式会社BANDAI SPIRITS。ガンプラをはじめとするプラキットを手がけるセクションは引き続きホビー事業部として精力的な商品展開を行ってまいります。

社名を変更して初となる静岡ホビーショーのBANDAI SPIRITS ホビー事業部ブースは、ガンプラ、キャラクターメカ、キャラクターアイテムのジャンルを問わず、チャレンジングなアイテムを数多く発表していました。本項では、中でもホビージャパン編集部が注目の3アイテムをピックアップ。BANDAI SPIRITS ホビー事業部でその3アイテムの開発を担当した後藤氏のコメントとともにお届けします。



▲5月発売の「MGガンダムF91 Ver.2.0」と6月発売の「RE/100ピギナ・ギナ」。MGとREでの運動はもちろん、それぞれのキットとしての完成度も高く、1/100スケールでの小型MS再現の新たな1歩となった



▲一般日に発表されたRE/100 89式ベースジャバー。7月発売予定のMGジェガンとの運動アイテム。「逆襲のシャア」アイテムの今後も気になる



PICK UP ITEM

もうひとつのRGユニコーンガンダム

RG 1/144 ガンダムベース限定 RX-0 ユニコーンガンダム (デストロイモード) Ver.TWC (LIGHTING MODEL)

お台場にあるガンプラの聖地「ガンダムベース東京」販売アイテムとして発表された「RG 1/144 ガンダムベース限定 RX-0 ユニコーンガンダム(デストロイモード) Ver.TWC (LIGHTING MODEL)」。



発表された当初「非可動式」というワードに誰もが、頭が「？」になったことでしょう。RGとうたっているのになぜ動かないのか、そもそもガンプラのハイスペック化が進むこの時代になぜ非可動なのか、編集部としてもぜひとも詳細を知りたく、本アイテムの疑問点を後藤氏にぶつけてみました。



▲写真(上)が本アイテムの核となるLEDユニット。台座内の制御装置で写真(右)のような発光演出を可能とする。発光演出の技術はPGガンダムエクシアで実装されたものだが、1/144スケールのフレーム内に収められたこのLEDユニットは我々の想像をはるかに超えるものだった



後藤 豊氏

▲2011年バンダイ入社。入社時より、RGシリーズの開発に携わる。主にRG、MG、RE/100を担当。RGユニコーンガンダムやMGジム・スナイパーIIなど新機構開発が伴う商品を担当している

インタビュー/後藤豊 (BANDAI SPIRITS ホビー事業部 ガンダムチーム)

サイコフレームの発光を 再現したRGユニコーンガンダム

そもそもリアルグレード「ユニコーンガンダム」を開発するにあたって、設定に沿った「変身」、「サイコフレームの発光」というふたつの方向性があったんです。どちらも煮詰めたかったところですが、最終的には変身を選択することでリアルグレードとしての深掘りをしました。残った「発光」については、お台場の実物大ユニコーンガンダム立像モデルとして考えればアプローチできるということでトライすることになりました。やはり、どうしてもリアルグレードのサイズで発光表現をやりたい、というのがひとつの希望としてあったんです。同時期にパーフェクトグレード「ユニコーンガンダム」や「ガンダムエクシア」がありましたので、発光に関する知識や経験を得ることができまして、何度も何度も内部構造を検討した結果、やっとこの1/144スケールサイズに凝縮することができました。

技術蓄積によってなし得た 1/144スケールでの発光表現

発光の難しいところとしては、配線を通しつつ光を行き渡らせるだけの特殊な構造が必要になりますので、通常の商品ですと可動やフレームとして内包している部分をすべて発光のための構造に置き換えています。発光に関しては、完全にLEDと配線を一体化したフィルム型のユニットとベースに収納している制御基板で担っています。光も赤と緑、そして光のゆらぎなどにこだわりました。フィルムは曲げに強い素材なので断線などのトラブルが生じるリスクが低いですし、挟み込みだけで組めるので、組み立ても難しくありません。また、白いパーツの成型色も新規のものを作って、透けないように工夫しています。バックパックやハンドパーツなどはVer.TWC仕様のものであり、フレームもポーズ固定用に角度などを調整した新規金型のパーツを用意しています。

実物大ユニコーンガンダムが存在する からこそその「リアルグレード」の形

RGでありながら非可動モデルであるといった点ではありますが、部材も専用のものを開発していますし、仕様面は現在のプラモデルの先をいくものとして突き詰めたところもあります。コストと機能面を攻めた内容になっています。既存のリアルグレードは高い可動性能であったり、ハイディテールだったり、アニメの中で動くものをリアルとして捉えたとときにどう表現するかをテーマとしていますが、今回は元となった「RGユニコーンガンダム Ver.TWC」がかなり実物大立像に色やマーキングを寄せたものだったので、残った発光というものを「リアル」要素として組み込んで、リアルグレードとして商品化したものが本作となります。



▲「Figure-rise」シリーズでは、集英社とBANDAI SPIRITSのコラボによる「ブルマ&バイク」を参考展示。バイクは変形ギミックを有しているなど、模型的な楽しさが上乗せされている



Figure-rise Standard [NARUTO]からは「うちはサスケ」を参考展示



Figure-rise Standardで再始動した「仮面ライダー」は、第1弾の「仮面ライダービルド」に続いて、「仮面ライダーエグゼイド」を参考展示



ガンプラ以外のキャラクターメカプラキットも幅広く展開。会場では「熱血最強ゴウザウラー」の商品化企画が熱血進行中であることが発表された



発表以来、多くの反響を呼ぶ「ねぶそろ」は8月の発売に向けて着々と進行中。発売後はSNSを席巻しよう